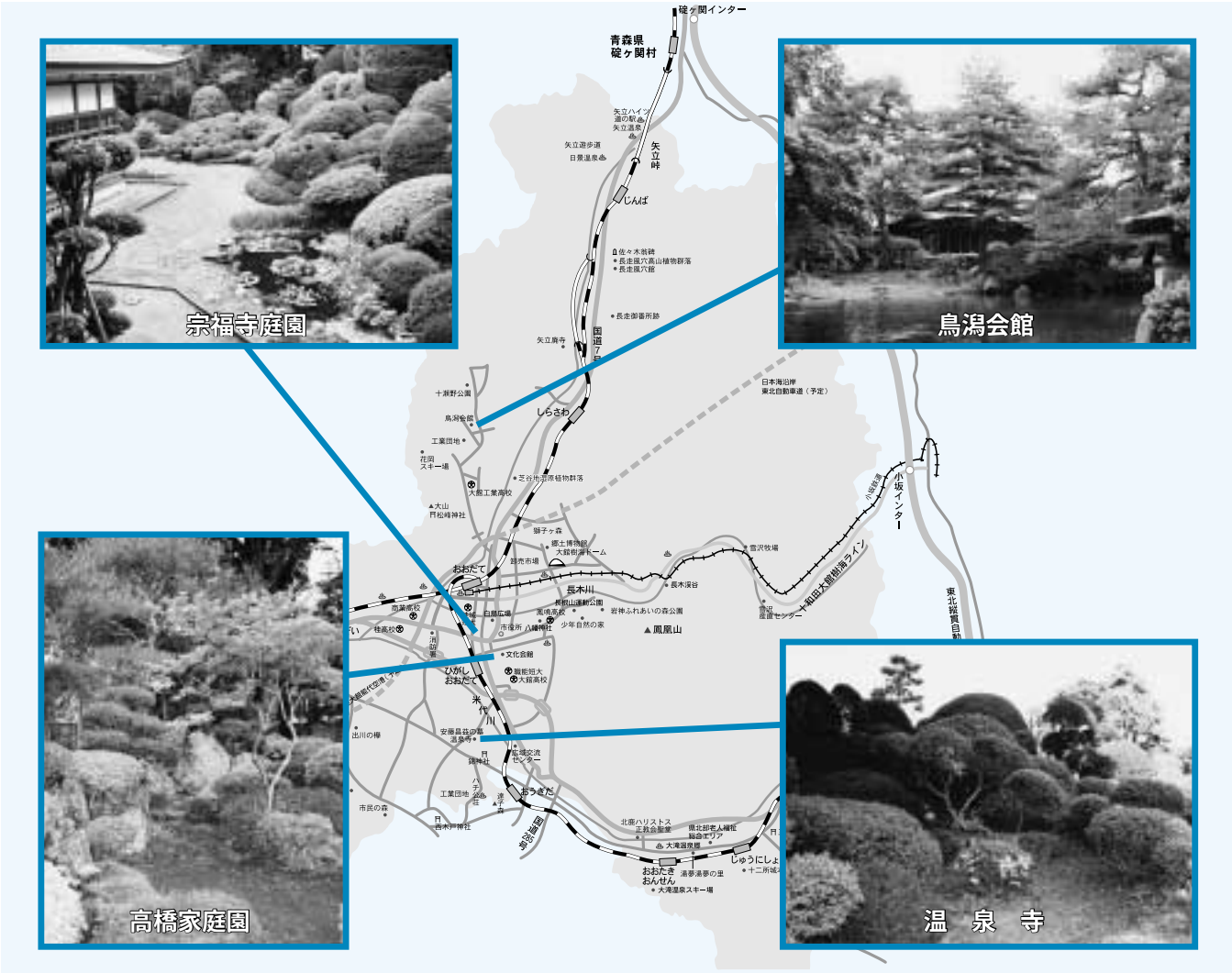

たや、あるいは参詣の機会があるかたは拝見できると思います。「高橋家庭園」は全くの個人宅なのですが、今回は高橋さんのご厚意で拝見させていただきました。

宗福寺庭園　雨香庭（うこうてい）

宗福寺は、元和元年（1615年）、大館城代初代小場義成（おばよしなり）が、同家の菩提寺として常陸国（ひたちのくに）（今の茨城県）から移築した由緒あるお寺で、四百年近い歴史と、格式のあるお寺として市民に知られています。お庭は「雨香庭」と呼ばれ、お寺の本堂に入ると左手のガラス戸一面に広いお庭の緑が目に飛び込んできます。

広い敷地の後方は小高い丘になっていて、斜面いっぱいに重なり合うようにイチイやカエデ、ツゲを主体とする多種多様の木々が、思い思いの形で立ち並んでいます。それらは背後にそびえる桜の巨木と共に永い歴史を感じさせ、折からの梅雨時の雨に濡れて、まさに名前のごとく雨に香る緑のお庭でした。管理者代表の蔦谷達元（つたやたつげん）氏によれば、このお庭の名前は、大正年間にこのお寺を訪れた永平寺の僧侶によって名付けられたそうです。また、第2次世界大戦の戦中戦後の混乱期に、お庭の手入れができず、木が少し延び過ぎてしまったとのこと。本当に庭園は生き物なのだと実感し、また残念に思いました。

現在、少しずつ刈り込みを深くしていって、形を整えているところであるというお話を伺い、今後の変容の姿もまた楽しみに、宗福寺を辞去しました。

地方文化の粋　鳥潟会館庭園

鳥潟会館は花岡地区で代々肝煎（きもい）り（庄屋）を務めた鳥潟家の屋敷で約300年の歴史を持ちます。この鳥潟家は、江戸期に苗字帯刀（みょうじたいとう）を許され、多彩な人材を輩出したことでも知られています。

建物は昭和11年から5年の歳月をかけて補修と増築が行われ、庭造りは京都から専門の造園師を招くほど本格的なものでした。この邸宅と庭が、故郷への恩愛（おんあい）の情が深かった京都帝国大学名誉教授（日本外科学会会長）鳥潟隆三博士により昭和26年、当時の花岡町に寄贈され、一般公開されることとなったものです。

鳥潟邸の門前に立ちました。正門から中門に至る外路地の右手に植えられたイチイの並木がまず目に飛び込んできます。正門近くにそびえるイチイの大木が、くろぐ